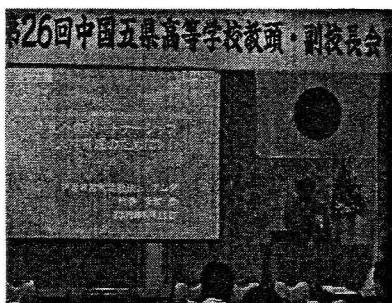


## 第26回中国五県高等学校教頭・副校長会研究協議会 記念講演

平成21年8月11日 10:30~12:00

講師 特定非営利活動法人 アムダ 代表 菅波 茂 先生

演題 「平和へのパートナーシップ」 —人材育成のために—



「救える命があればどこへでも」の活動をする、アムダの代表をされている先生の原点は、高校生の時、資料集で見た1枚の写真であった。それは、戦死して水に浮かんでいる一人の若者の写真であった。先生の医者としての経験から、病気で死んでいく人のうち、99%の人が「死にたくない」と思い、わずかに1%の人が「感謝の気持ち」で死んでいく。写真の青年は、200%死にたくなかったに違いない。なぜ死ななければならなかったのか。

平和とは。「平和とは戦争が無い状態」というのは19世紀までの古い考え方である。昔、健康とは、「病気でないこと」であったが、現在では「充実した社会生活が送れること」に考えが変わってきている。現在の平和とは、「家族の今日の生活（食べること）と明日の希望（子どもの教育）が実現できること」と認識している。

パートナーシップとは。パートナーシップとは、苦労・困難を共にする関係である。共に困難を克服して、乗り越えて絆が深まる。夫婦の関係である。国際社会では、私とあなたとの関係しかない。信頼できるのか、信頼できないのか、苦労をともにできるのか。世界の人との人間関係を築くのに大切な考え方である。

人権とは。「存在に対して敬意を払うこと」である。あなたのことを忘れていません。あなたのことに関心があります。あなたを必要としています。「ありがとう」の言葉は、相手の存在に対して、最大の敬意を表す言葉である。

差別とは。意欲や能力があるにもかかわらず、何らかの理由無き理由でチャンスを与えず結果を出させないことである。意欲と能力のある人には、チャンスを与えることが重要である。

「平和」、「人権」、「差別」をどう考えるのか。自分でしっかり定義して使いこなして欲しい。本当のものの見方、考え方をすることがこれからの国際社会で、世界の人との人間関係を築く上で大切である。